

富田 健弘 (Takehiro TOMITA)

学位：修士（工学）

略歴：日本大学大学院博士前期課程生産工学研究科修了

専門分野：情報科学

研究課題：1. 数学一般（統計数学）

2. 科学教育

【著書・論文・その他】

〈執筆〉

- ・共著：保育内容 子どもと環境 -基本と実践事例- 株式会社 同文書院 2023 年 10 月 12 日発行
- ・私の私学考 413「逆転力教育 ― 愛知文教大学の歩み」私学経営 No.541 P.5～P.11（公益社団法人、私学経営研究会、2020 年 3 月）

〈研究発表〉

- ・「実習評価の関連要因の検討 ― 保育者と養成校学生の比較検討から ―」（全国保育士養成協議会第 54 回研究大会、2015 年 9 月）

〈講演〉

- ・「世界をつなぐ学生たち」（瑞穂市瑞穂大学第 8 回講座、2022 年 7 月 21 日）
- ・科学の眼「折り紙とストローのヘリコプター制作」（社会福祉法人養徳福祉会ハチスチルドレンズセンター、2015 年 5 月）

〈外部役職〉

- ・津島北高等学校評議員（2020 年 4 月～）
- ・社会福祉法人万灯会苦情解決第三者委員（2019 年 6 月～）
- ・羽島市国際交流協会会長（2019 年 5 月～）
- ・羽島市観光協会理事（2019 年 5 月～）
- ・社会福祉法人万灯会評議員選任・解任委員会外部委員（2017 年 4 月～）
- ・社会福祉法人養徳福祉会ハチスチルドレンズセンター外部委員（2017 年 4 月～）
- ・小牧市国際交流協会理事（2015 年 6 月～）
- ・小牧市文化財啓発事業調査研究受託委員会委員（2014 年 5 月～）

令和 6（2024）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	富田健弘	職位／役職	教授／学長
-----	------	-------	-------

1. 教育の理念

本学の建学の精神は「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」であり、この建学の精神を実現することを使命としている。本学は、建学の精神を現代社会に適応させるべく、「急激に変化する現代社会を生き抜く人材の育成」と読み替え、グローバル化の波にあってもが容易に社会的弱者になりうる現代社会において、その没落を防ぎ、一生を自立的に生き抜く強い心とそれを助ける社会力を備えた人材を育成することを通じ、社会の発展に寄与することを目的としている。

本学人文学部人文学科は、上記の使命・目的を達成するため、自他の文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく人文知の総合的な育成、および実践英語、実践中国語の修得と母語の運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成を教育目的としている。（学生便覧 教育方針より）

2. 教育活動の内容

ことばと人文学 （建学の精神担当）

「ことば」を、本学における学びの全てに共通する学修キーワードとして探求し、多文化共生社会における「ことば」の重要性を理解したグローバル人材育成の教養基盤を形成する。4年間にわたって、「ことば」をテーマにした必修科目および選択必修科目で学ぶ。これをサポートする研究をしている。

3. 教育の方法

本学の教育の特徴を示し、これを実現すべき教育のカリキュラムが配置されている。主な教育方法を示す。（学生便覧 本学の教育の特色より）

(1) 主専攻プログラム登録制度

グローバル英語プログラム、中国語・中国文化プログラム・教員養成プログラムの3つから、志望にあったプログラムを主専攻プログラムとして登録し、効果的に学修をすすめている。

(2) 実践的な語学教育

英語、中国語を集中的に学ぶ、グローバル英語プログラム、中国語・中国文化プログラムの2つの語学プログラムを設置している。1年次には、2つのプログラムの必修科目を学び、2年次から登録した主専攻プログラムで集中的に英語、中国語を学ぶ。

(3) 教員養成プログラム

規定の単位を修得することで、英語または国語の教育職員免許状（中学校・高等学校教諭1種）を取得することができる。さらに通信教育により小学校教諭2種免許も取得できる。

(4) 語学研修・海外留学

語学力と総合的なコミュニケーション力、異文化への理解を深めるため、アジア語学研修、提携校留学プログラムへの参加を奨励している。

(5) 日本文化を基盤とする幅広い教養教育

日本を正しく理解することは異文化理解への第一歩との考えの基、本学では日本文化を中心に幅広く教養教育科目を開講している。

(6) アカデミアゼミ

3年次以降に専門教育科目群の中に設置された研究室単位の科目である。ここで自ら課題を設定して専門的な研究を行い、プレゼンテーションや研究レポートを作成し、自分の意見を正しい言語で表明できる能力を養う。

(7) 進級制度

本学における学修の質保証の観点から、進級制度を導入している。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

愛知文教大学では、英語や中国語を生きた言語として体験し、異文化コミュニケーション力を身につけ、グローバル化への対応力を養うため、海外留学を奨励している。

海外で生活し、外国人学生と共に学ぶ中で、語学力、自主性、課題対応力などが身につくだけでなく、言葉や文化を越えて心を通じ合わせる友人や、新たな気づきを得ることもできる。留学から得られるものは実に貴重で、何物にも代えがたいものであると考えている。

(1) 交換留学

(2) 提携校留学（留学中の本学授業料の4分の3を免除）

(3) 語学研修（英語・中国語）

（学生便覧 留学プログラムより）

5. 今後の目標

学生の最終目標の一つに就職がある。この就職活動の指導や求人情報の提供はもちろん、希望の就職を叶え、転職を繰り返すことのないよう、勤労観・職業観を養い、社会人として自立するためのサポート体制の充実を目標としている。

本学は、1年次からキャリア教育を行い、「キャリア」とは何かを見極める。キャリアは自己責任で、人生を設計・選択して、夢を実現し、自分で将来ビジョンを構築するものだが、自分がどうなりたいか、どう生きたいかを考え、その実現に向けて努力することが大切だと教えた。

「企業が求める人材」は、コミュニケーション能力・意欲・協調性・基礎学力・積極性・創造力を有し、加えてサブ的な能力として、語学力を備えている人材である。毎日の学修や課外活動などをしっかり行うことにより、これらを身に付け、学生に未来を見る力を付ける指導を行っていききたい。

（学生便覧 進路支援より）